

▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽▲▼▲▼△▽△▽

広島県緑化センターメールマガジン VOL.293 H27.5.7

△▽△▽▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲▽△▽△▼▲▼▲

5月に入り、ホオノキやジャケツイバラ、ナンジャモンジャが咲き始めました。今年のナンジャモンジャは花の数が多いです。ハンカチノキの白い総苞片はまだ見られます。

★ 開花情報

ヒトツバタゴ（一葉たご）モクセイ科ヒトツバタゴ属（写真1）

別名ナンジャモンジャやアンニャモンニャと呼ばれていますが、これは自生地が木曾川中流域と対馬に限られるため、他の地域では見慣れない珍木という意味です。文政年間（西暦1818～1831年）に発見された落葉高木で、5月上旬、新枝の先に花序をつけ、白い花をたくさん咲かせます。上対馬町の鰐浦（ワニウラ）湾一帯の群落では、山の斜面が真っ白になるほどの花が海面に映り、この様子からウミテラシと呼ばれています。単葉のタゴ（トネリコの別名）という意味でヒトツバタゴの名がついています。

場所：多目的広場奥

オオデマリ（大手鞠）スイカズラ科ガマズミ属（写真2左）

古い時代から栽培されており、庭木や切り花などに利用されます。山地の谷筋などに自生するヤブデマリの変種、ケナシヤブデマリが原種とされています。球形の花序は枝の先端につき、直径は5～9cm、白色の花は全て装飾花で、直径2.5～3cmです。

場所：しゃくなげロード入口

コデマリ（小手鞠）バラ科シモツケ属（写真2右）

シモツケの仲間でバラ科に分類され、前述のオオデマリとは科が異なります。中国大陸中部原産で古い時代に渡来し、江戸時代には小手鞠と呼ばれていたようです。落葉低木で枝先は垂れ下がります。花は4～5月、枝先に直径2.5～3cmの花序をつけ、白い小さな花を多数咲かせます。この球形の花序を小形の手まりに見立てて名付けられました。枝葉は草木染めの原料に利用され、黄色に染まります。

場所：見本園他

タニウツギ（谷空木）スイカズラ科タニウツギ属（写真3左）

日本固有種で、本州の主に日本海側、山地の日当たりの良い場所に自生する落葉小高木です。5～6月に漏斗状の淡紅色または紅色の花を2～3個ずつ咲かせます。タニウツギ属は日本、朝鮮半島、中国大陸におよそ12種分布していますが、特に日本で多くの種分化を起こした属で、ハコネウツギ等10種が自生します。

場所：ツバキ園トイレ前他

トチノキ（栃の木） トチノキ科トチノキ属（写真3右）

日本固有種で、高さ30m以上、幹の太さは直径2m以上の大木になります。葉は掌状複葉で、大きな団扇で一枚の葉になります。花は5～6月、枝先に長さ15～25cmの円錐花序を直立し、白色で基部に淡紅色の斑紋がある花を多数つけます。花のほとんどが雄花で、両性花は花序の下部につきます。ミツバチの重要な蜜源となっており、体の大きいマルハナバチが花粉を運びます。

場所：第2駐車場横他

緑化センターホームページ (<http://ryokka-c.jp/>) に開花状況を掲載していますので、ぜひご覧ください。また園内にも、各月の開花マップがありますので、来園の際にはお立ち寄りください。

開花等の詳細は緑化センター管理事務所（082-899-2811）へお問い合わせください。

★その他の園内開花情報

開花	ツクバネ、ホオノキ、ジャケツイバラ、ヒメヤマツツジ、キレンゲツツジ、ムベ、ミツバアケビ、ハナミズキ、カラコギカエデ、スノキ、オオカナメモチ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、オウバイ、フジ、ヤマフジ、ヒメハギ、フデリンドウ、マツバウンラン、ニワゼキショウ他
----	---



写真1 ヒトツバタゴ（多目的広場） H27.5.6



写真2左 オオデマリ (しゃくなげロード入口) H27.5.6



写真2右 コデマリ (倶木の森入口向かい) H27.5.6



写真3左 タニウツギ (ツバキ園トイレ前) H27.5.6



写真3右 トチノキ (第2駐車場前) H27.5.6